

1. 基本情報

- (1) 国名：アンゴラ共和国（以下、「アンゴラ」という）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ルアンダ州、ウアンボ州及びウイラ州
- (3) 案件名：母子保健サービス提供体制整備計画
(The Project for the Improvement of the Maternal and Child Healthcare Service Provision System)
- (4) 計画の要約：
本計画は、ルアンダ州、ウアンボ州及びウイラ州の一次医療施設に対し、妊産婦・新生児ケアに必要な機材及び救急車両等を整備することにより、母子保健サービスの提供体制の強化を図り、もって同地域における母子保健サービスの質とアクセス向上を通じたアンゴラにおける人間の安全保障に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

(1) 本計画を実施する外交的意義

アンゴラは石油及び豊富な鉱物資源を有する資源国であり、2019 年 8 月にアンゴラ現職大統領として初めてロウレンソ大統領が TICAD 7 に参加し、2023 年 3 月にロウレンソ大統領が再度訪日したことを機に、二国間関係の強化に向けた機運が高まっている。

アンゴラは、石油・ダイヤモンドをはじめとする豊富なエネルギー・鉱物資源、農業及び水産業等の大きな潜在力を有しているが、内戦の影響により基礎的な社会基盤が崩壊し、内戦後数十年経った今も不十分である。

我が国は、対アンゴラ国別開発協力方針（2024 年 3 月）において、「人間の安全保障」を重点分野に指定し、医療サービスの向上及び公衆衛生の普及・啓発を行うこととしており、これまで、母子手帳の配布や妊産婦に寄り添ったケアの強化などに関する技術協力を実施しており、同国における保健医療サービスの提供体制（含：レファラル体制）を強化する本計画は、同方針に沿って既往事業の効果を向上させるものである。また、我が国は、TICAD 8 において、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）推進、保健・医療制度強化及びより良い健康安全保障の構築を表明しており、本計画は右コミットメントを具体化するものである。

(2) アンゴラにおける保健セクターの現状・課題及び本計画の位置付け

アンゴラでは、1975 年の独立以降 27 年間続いた内戦によって、国内の社会システムの大半が破壊され、人間開発指数（2024 年）が 188 か国中 150 位と依然として低い等、社会サービスの改善が求められている。特に、保健医療分野は未だ未開発状況にあり、母子保健分野では、全世界的に見て高い水準である妊産婦死亡率（出生 10 万対、世界銀行）は 2002 年（内戦終結年）の 690 人から 2017 年の 241 人へと改善が見られる一方で、SDGs で定められた目標値 70 人との開きは依然大きく、達成は厳しい状況にある。

途上国の妊産婦・新生児死亡の多くは、分娩時や分娩直後に起きているが、その多くが適切な医療サービスにより防ぐことができ、適切なケアが可能な保健医療施設での出産は妊産婦死亡率及び新生児死亡率の低減に効果があるとされている。しかし、同国では施設分娩率が46%、産後2日以内の産後検診受診率も20.9%（同国保健省）に留まり、母子保健サービスの利用率が低い現状にある。また、医療サービスの提供体制の地域間格差も顕著で、アクセス困難・搬送の遅れの問題も深刻であることから、適切なケアが受けられる医療施設への迅速かつ安全な移送によるレファラル体制の改善が不可欠である。

これらの課題に対して同国政府は市レベルの保健医療サービスの拡充を積極的に進めており、「国家開発計画 2023～2027 年」では5歳未満児死亡率と妊産婦死亡率の削減を目標とし、一次医療レベルの母子保健サービスの質の改善やアクセス向上を優先課題の一つとして掲げている。さらに同国保健省は「国家保健開発計画 2012～2025 年」において、母子保健サービスを重要課題として位置づけ、母子保健指標を改善するため質の高い母子保健サービスや緊急産科・新生児ケアへのアクセス向上に戦略的に取り組んでいる。

かかる状況を受け、本計画は、ルアンダ州、ウアンボ州及びウイラ州の一次医療施設（これまで JICA が技術協力で実績のある21の市立病院及び保健センターの中から、協力準備調査を通じて対象施設を特定予定）において、妊産婦ケア及び新生児ケアの診療活動に不可欠な医療機材及びレファラル体制の改善に必要な救急車両等の整備により、緊急産科・新生児ケアを含む母子保健サービスの質改善及びアクセス向上を図るもので、同国政府戦略に合致する優先度の高い計画として位置づけられる。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容：

ア) 施設、機材等の内容：妊産婦・新生児ケアに必要な医療機材（分娩用ベッド、ベビーベッド、高圧滅菌機、新生児モニター及び発電機等）及び救急車両等を想定。

イ) コンサルティング・サービス／ソフトコンポーネントの内容：詳細設計、入札補助、調達監理、整備機材及び車両の保守・維持管理指導（修理・点検活動、保守管理記録、在庫管理及び部品・工具調達管理）等を想定。

② 期待される開発効果：対象地域の医療施設における施設分娩件数及び産前・産後検診受診者数の10～15%程度増加、対象地域の医療施設分娩率が10%程度増加、対象地域の医療施設搬送件数の増加。

③ 計画実施機関／実施体制：保健省（Ministry of Health）

④ 他機関との連携・役割分担：ウイラ州の本計画対象施設候補において、UNICEF が新生児用の医療機材整備を計画していることから、内容の重複を避けつつ、連携を図ることと、機材拡充に伴う医療サービス向上が期待される。

⑤ 運営／維持管理体制：本計画で整備する機材及び救急車両の維持管理は、保健省及び対象施設が行う。スペアパーツや消耗品に関しては、保健省傘下の中央医薬品調達・供給機関（CECOMA）による配布や各施設予算での購入を想定。日常的な機材及び救急車

両の管理、並びに故障対応は各施設の専門技師が行う。

(2) その他特記事項：

- 環境社会配慮カテゴリ分類：C
- ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

平成 22 年度対ウガンダ無償資金協力「中央ウガンダ医療施設改善計画」(事後評価:2015 年度)では、供与医療機材を現地で使用実績のある機材に限定し、医師が十分な使用実績を有しない機材の使用方法に関する講習を実施した結果、供与機材の有効活用及び適切な維持管理に繋がったことが確認されたことから、本計画でも、病院側の臨床技術レベルや維持管理体制の現状を踏まえ、供与機材の選定やソフトコンポーネントを検討する。

以 上

[別添資料] 地図「母子保健サービス提供体制整備計画」

地図「母子保健サービス提供体制整備計画」

事業対象地域：アンゴラ 3 州（ルアンダ州、ウアンボ州及びウイラ州）



出典：United Nations (<https://www.un.org/geospatial/mapsgeo/generalmaps/> 当該リンク先)
より JICA 作成